

本日の
プログラム

それほど(S)大事で(D)現代的な(G)仕事(s)

北海航測(株) 工藤 健太 氏

ロータリー財団月間に因んで

地区ロータリー財団委員会 カウンセラー 羽部 大仁 氏

今月は“ロータリー財団月間”ですので『ロータリー財団月間に因んで』をお話しさせていただきます。ロータリー財団の生みの親と言われるアーチ・クランプ元RI会長は、ロータリー運動を推進するために財源を確保する必要性を願っていました。彼は、「諸々の社会奉仕を今まで通りに実行していくには、慈善・教育・そのほかの社会奉仕の分野において世界でよいことをするための基金を作るのが、極めて適切であると思われる」とクランプの簡潔でありながら力強い主張により、ロータリーの基金が生まれました。1928年に正式にロータリー財団と改称。管理委員会が結成され、クランプは初代管理委員長として1928年から1935年まで務めました。委員長を退いた後も、ロータリーのリーダーや会員に財団の重要性を教え、寄付を奨励し続けました。

ロータリー財団の使命は“ロータリアンが人々の健康状態を改善し、質の高い教育を提供し、環境保護に取組み、貧困をなくすことを通じて、世界平和、親善、平和を達成できるようにすること”です。

私が5年間その内直近3年間は第1地域のRRFCとして活動して感じた経験をお話しします。まずロータリーの最優先事項は“ポリオ根絶”です。10月24日は“世界ポリオデー”でした。素晴らしい活動が報告されています。



左下の図は年次基金のシェアシステムです。皆様からの善意のご寄付は3年間投資に回され3年後地区に地区財団活動資金(DDF)と国際財団活動資金(WF)として戻されます。ですから3年後の活動は今年



のファンディングが活動資金となるのです。さて札幌東ロータリークラブのファンディングは堅調です。しかし、一つお願いがあります。財団の基礎を作るPHS(ポール・ハリス・ソサエティ)へ多くの会員を迎えたいと願っています。

ロータリー財団へのファンディングは、難しいものです。この世界に不可思議なご縁をいただき人生を歩に際し、今何ができるか?大きな課題であります。自らに属する財物は僅かなものでも“喜捨”できることは何と素晴らしいことか?そこには、執着心が取り除かれ自らが救われていくことだと思えます。“財施”の機会は中々ないものです。この機会をロータリー財団への喜捨をお願いできればと念願して参りました。「寄付はお金があるからするのではない、誰かのために何かしてあげたい、思いやりの気持ちが寄付になるのです。」よろしくお願い致します。

札幌東ロータリークラブの益々のご発展と会員皆さまのご健勝を心より念じ上げます。